



# SPACE SHIFT

Sense the Unseen from Orbit

---

衛星データとアフリカ農業の未来

2026年5月13日



# 会社概要

- スペースシフトは**AIによる衛星データ解析を専門とするベンチャー企業**です。
- 2021年の資金調達を第二創業期として事業を拡大し、**累計12.3億円の資金調達**を実施しました。
- 自社の衛星は保有しておらず、**世界中の最適な衛星を使用することが可能**です。

社名		株式会社 スペースシフト
代表取締役		金本 成生 (かねもとなるお)
資本金		703百万円 (資本準備金含む)
設立		2009年12月11日
所在地		東京都千代田区大手町1-6-1 大手町ビル6階
その他拠点		鳥取県米子市、米国、欧州(準備中)
Webサイト		<a href="https://www.spcsft.com/">https://www.spcsft.com/</a>
事業内容		地球観測衛星データ解析ソフトウェア開発 宇宙ビジネスに関する各種調査、コンサルティング
従業員数		従業員数 30人 インターン 約 50名



## Mission

### 衛星データ × AI で見えないものを可視化する

衛星データと AI の最適な組み合わせにより「見える」世界を広げ、「考える」機会を増やす。  
人と地球が共生するためのテクノロジーを開発する。

## Vision

### 宇宙からの視点を日常に繋ぎ地球とテクノロジーの共生へ

人工衛星による「観測」と、高度な AI を活用した「解析」を繰り返し、人間社会と地球環境の調和をはかっていく。  
宇宙から持続可能な未来を考える社会へ。

## Value

#### 誠意を貫く

誠実さはすべての基本。  
他者に対し、また仕事に対し誠実に取り組む。

#### 失敗を恐れず挑戦を楽しむ

失敗から学び、  
楽しみながら挑戦し続ける。

#### 大胆に変化する

既存の枠にとらわれず、  
変化することで大きな目標を達成する。

#### 未来から逆算する

ゴールから逆算した具体的な行動、  
計画を立て実践し、未来を作り出す。

#### 新しい価値を共創する

一人では物事は動かない。  
パートナーやチームと積極的に連携する。

JAXA / NASA などの公的宇宙機関

民間宇宙輸送企業

民間衛星開発企業



クラウドサービス

公的サービス

民間企業

公的機関



衛星データ処理の **ソフトウェア開発** に注力することで、高精度な解析を実現



解析が難しいとされる **SAR 衛星データの AI 解析技術** を開発し、多くの情報を抽出・提供

※ SAR：合成開口レーダー (Synthetic Aperture Rader)



**効率的に衛星データを利用できる環境を整える** ことで、衛星データ利用のマーケット拡大を牽引

弊社は、SAR（合成開口レーダー）衛星のデータ処理に注力しております  
光学衛星とSAR衛星の主な特徴は以下の通りです

## 光学衛星

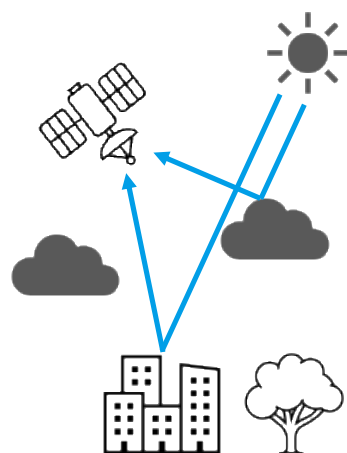
通常の写真と同様に太陽を光源として撮像

長所

- フルカラー画像のため、直感的に対象物の判別が可能
- SAR衛星よりも衛星の数が多い
- 高解像度（1ピクセルあたり0.3m~）

短所

- 雲に隠れた対象物は画像上で不可視
- 夜間に撮影できるのは都市部の明かりのみ  
= 実際に観測できるのは全球の25%程度



## SAR 衛星

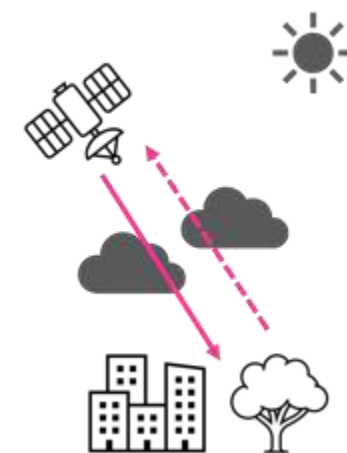
衛星自ら電波を照射し、その反射情報から地表面を観測

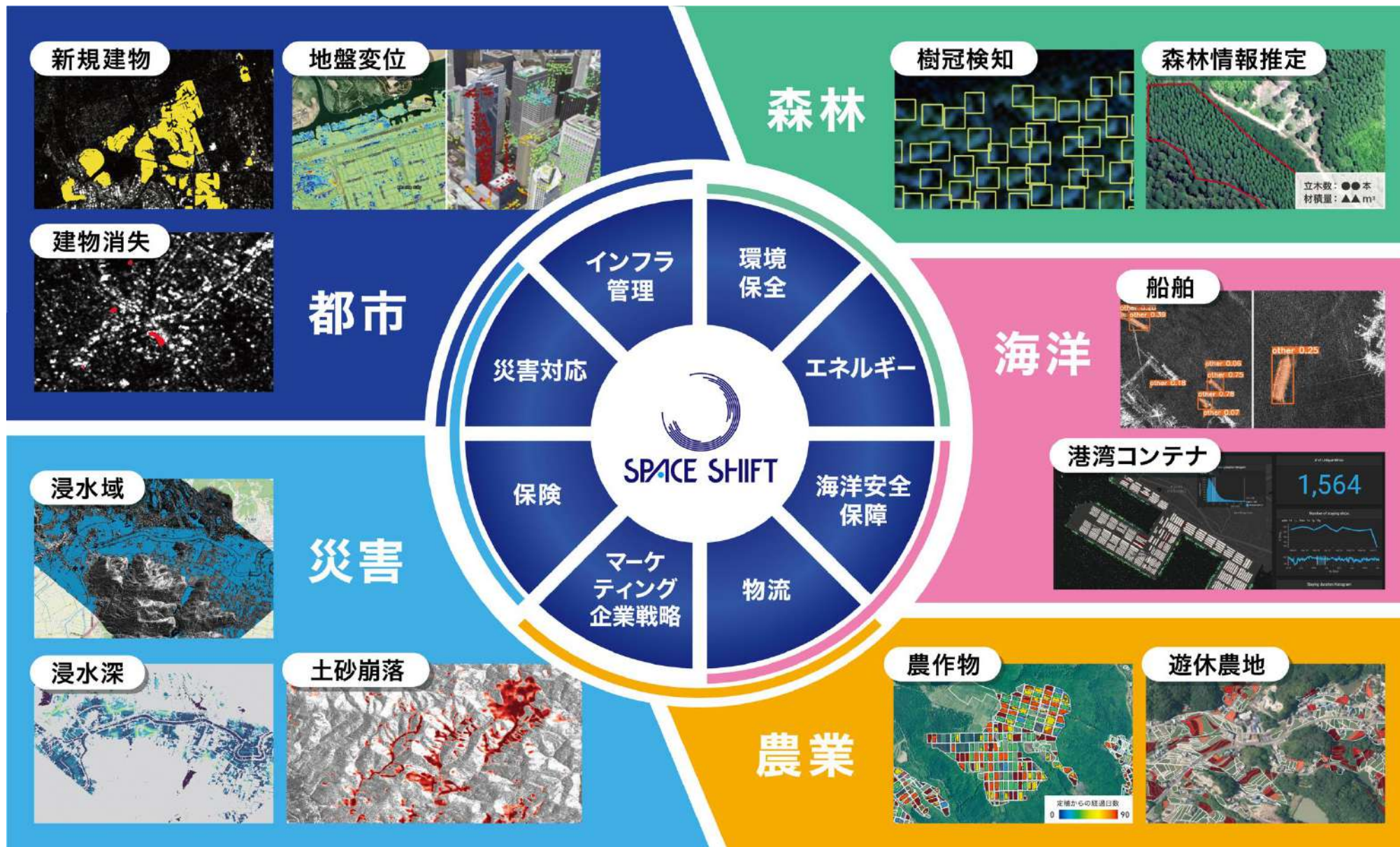
長所

- 曇天時・夜間、24時間365日撮影が可能
- 対象物の構造や材質等の特定可能
- 高解像度（1ピクセルあたり1.0m~）

短所

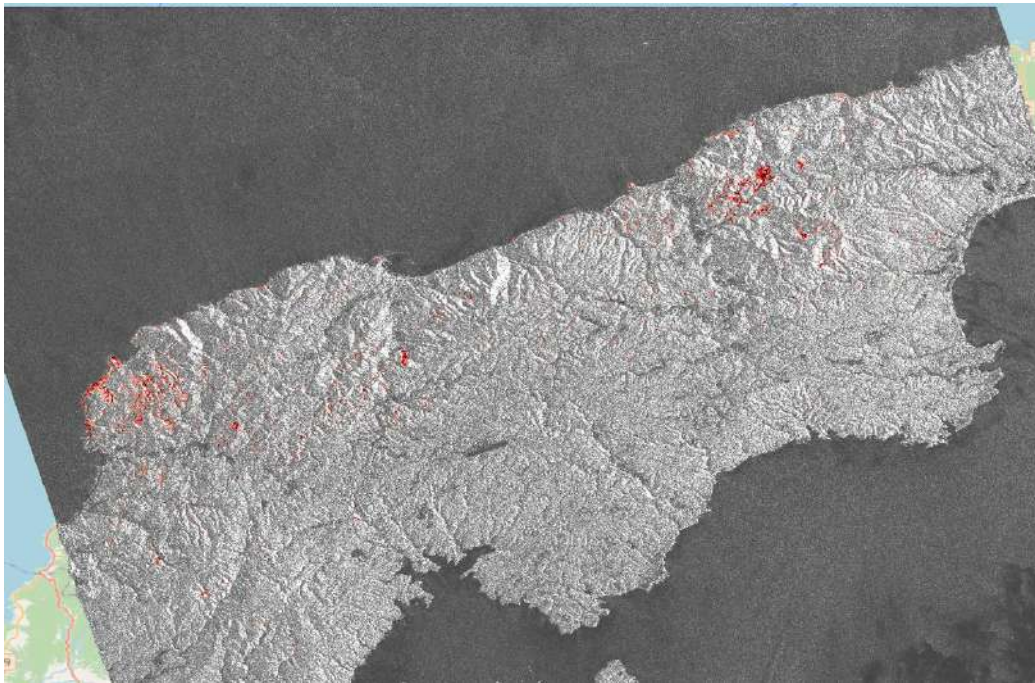
- 対象物の反射波を用いて画像を作成するため、モノクロ画像であり、直感的に画像判読が困難
- 衛星の数が少ない  
> 今後複数のレーダー衛星コンステレーションの計画あり



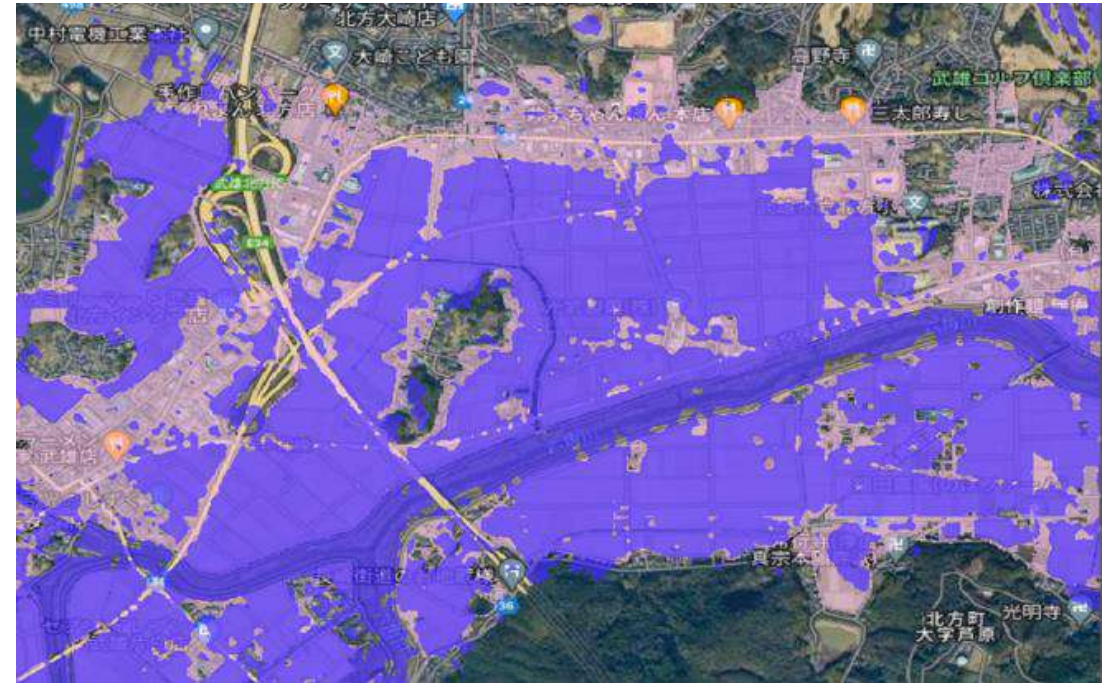


衛星データは広範囲をカバーし、立ち入りが困難な危険地域も観測できるため、状況を把握するうえで非常に有効な手段として期待されています

## 能登半島地震における衛星データ利用



## 佐賀県水害における衛星データ利用



最新の衛星画像により都市の開発状況や土地利用の変化を広域かつ定期的に把握することができます  
不動産開発における調査業務の効率化に貢献できると考えています

2022年10月撮像



▼ 赤部分が弊社の解析結果

2024年4月撮像



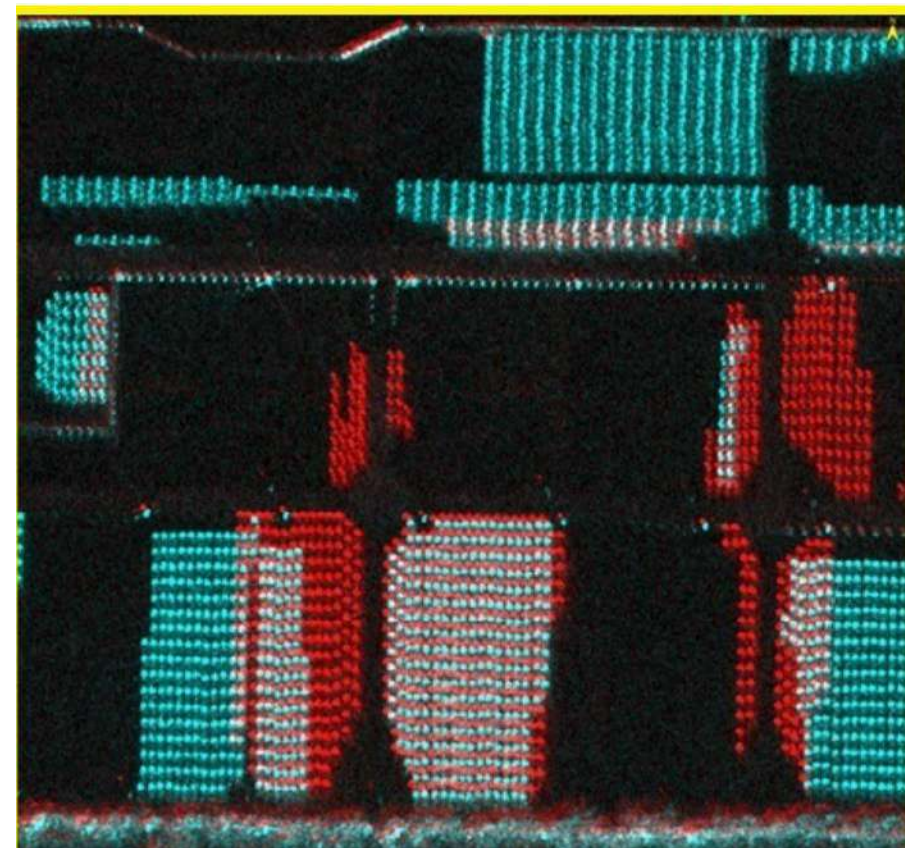
新規に建物が建築された箇所をAIにより検知

鉱山モニタリングや工場の駐車場の車両モニタリングなどから経済活動を可視化し、  
国や地域の経済動向の先行指標として活用できないか検討を進めています

### 衛星データを利用した鉱山モニタリング



### 衛星データを活用した車両モニタリング



衛星データを活用し、道路・橋梁などのインフラの地盤変位解析により広域かつ面的に異常を早期発見することで維持管理コストの削減に貢献できると考えています



## SAR 衛星を用いた変位解析の特徴

1. 過去に遡って時系列情報を観測可能
2. 現地に赴かずに観測可能
3. 地表面に GPS レシーバや測量点などを用意する必要がない



遊休農地を衛星データにより検知し、自治体の農地調査業務効率化に貢献しています  
また、衛星データにより農作物の生育状況をモニタリングし、収穫量の予測等に活用しています

## 遊休農地探索



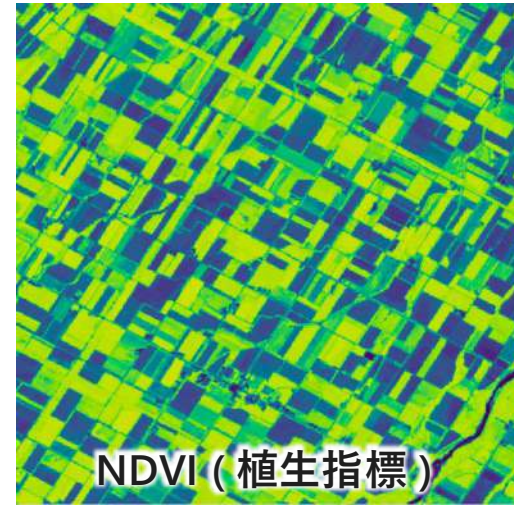
遊休農地の例  
農業をしておらず放置されている土地

AI  
解析

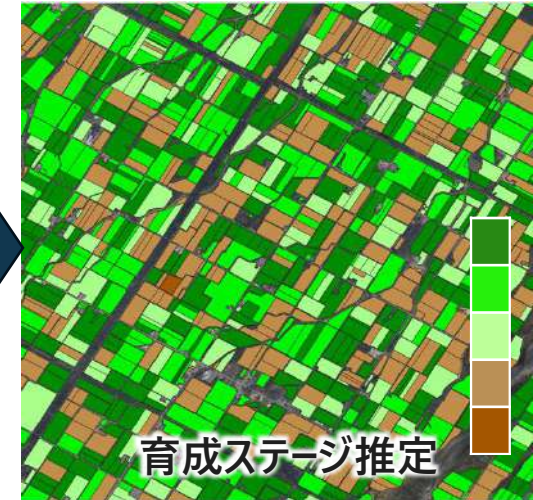


農地毎に確率を表示

## 農作物生育モニタリング



NDVI (植生指標)



育成ステージ推定

# 衛星 × AI で実現する 農地パトロール効率化

広域にわたる 遊休農地 を衛星データから一斉かつ高精度に検知

>>> 国・自治体・企業の 管理コスト削減 / 有効利用 に活用

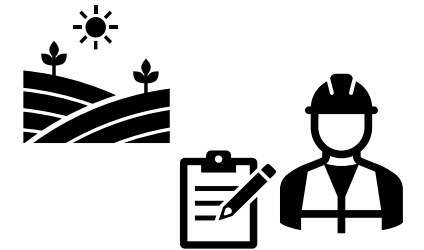
## 遊休農地探索



AI  
解析



管理業務効率化

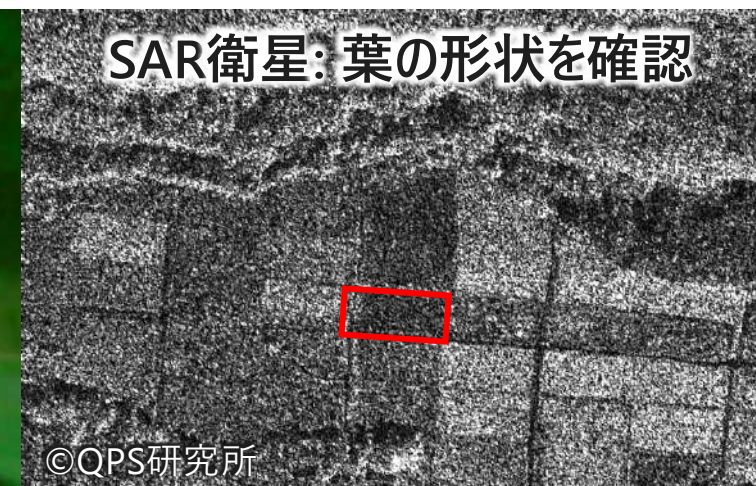


転用・有効活用



SAR 衛星データと光学衛星データ両方を用いて、遊休農地の候補地を広域※1で探索・検出

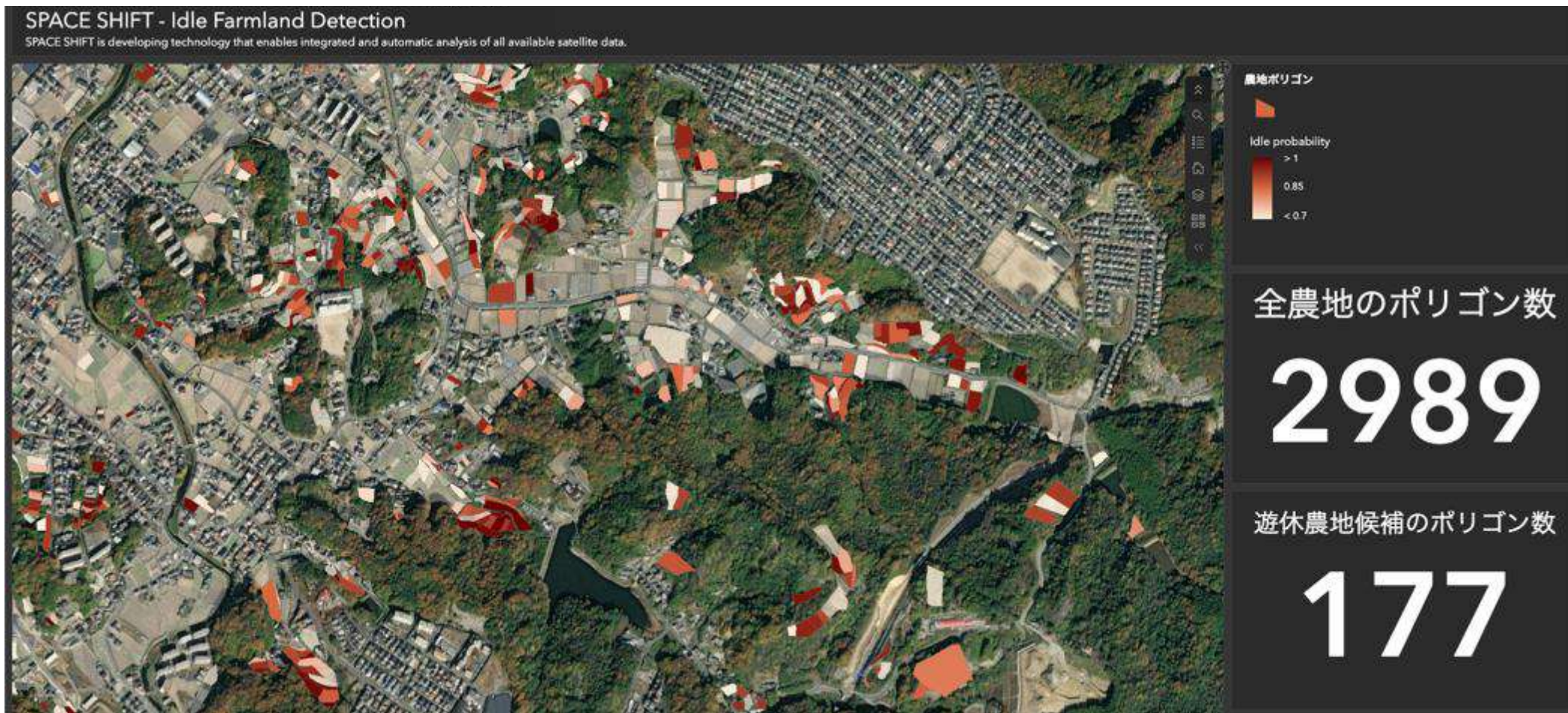
※1: 最大5km x 20kmの領域



- マップ上で区画ごとの遊休農地確率をレベル別に表示
  - ➔ 調査パトロール地の優先度を明らかに
- 実際の農地パトロール結果と照合し、現状 80 %程度の精度を確認  
(今後、更なる改善を見込みます)

SAR 衛星データと光学衛星データ両方を用いて、遊休農地の候補地を広域※1で探索・検出

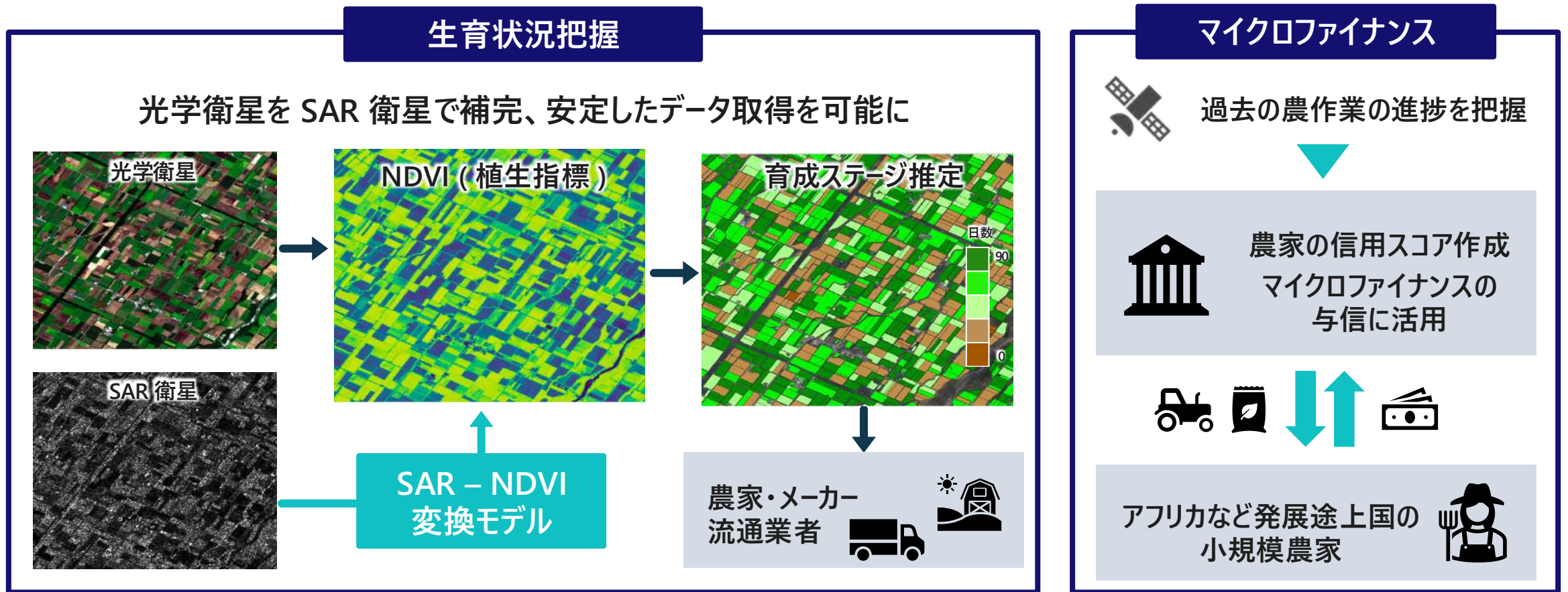
※1: 最大5km x 20kmの領域



# 衛星 × AI で実現する スマート農業

農作物の生育状況を把握し、生産・流通の効率化や価格予想につなげる

>>> 農家の生産効率向上 / 流通の最適化 / マーケティング などに活用



宇宙から見たキャベツ畑の様子（群馬県嬲恋村）

2017年6月20日



2017年7月20日



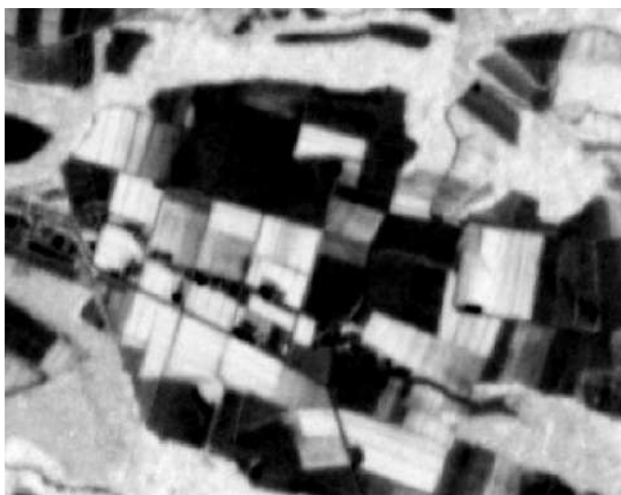
光学衛星では天候のため  
この間は1枚しかデータ  
がない



2017年9月10日



▼それぞれの赤外線解析画像（生育が進むほどピクセルが明るくなる。）



SAR衛星画像による  
補完技術を開発



## SPACE SHIFT



衛星データから過去の  
農作業の進捗状況を把握



農家の信用スコアを作成  
→ マイクロファイナンスの  
与信スコアを作成



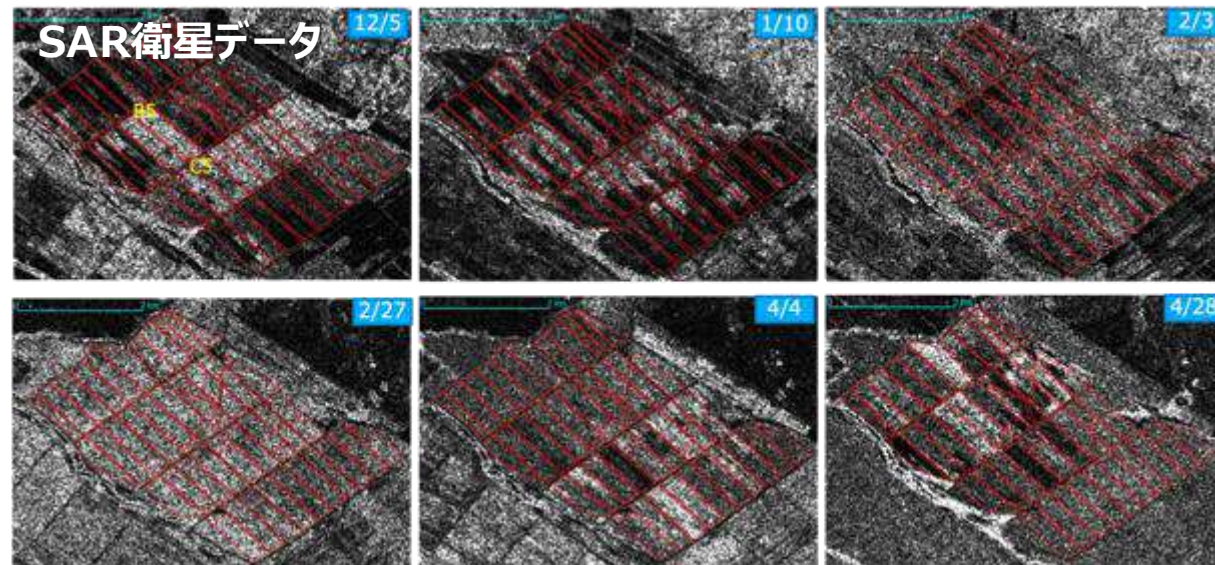
農業系商社

機械や肥料の  
販売・リース



月々の返済

発展途上国の小規模農家



ナイジェリアのイネ圃場での解析結果





衛星データ×AIの解析サービス  
幅広い産業に対応可能な技術を提供



社会課題を宇宙で解くための事業共創プログラム  
地上データを衛星データと掛け合わせることで生まれる新たな価値を共に検討し、実装まで協働

# SateAIs

サ テ ア イ ズ

衛星 × AI 解析を、現場の力に。

あらゆる業界に、先端衛星解析をパッケージで提供

## “多様な機能”を“柔軟な提供形態”でお届けする お客様の業務に寄り添った衛星データ解析サービス

### 業務用途に特化した“多様な機能”※

サブブランド配下に用途別の多様なAI解析機能を用意  
業務適用しやすいものを選択/組み合わせて活用可能

<b>SateAIs 都</b> -City-	建物変化検知AI	車両検知AI	etc...
<b>SateAIs 海</b> -Ocean-	船舶検知AI	オイルスリック 検知AI	水域検知AI etc...
<b>SateAIs 地</b> -Earth-	災害検知AI	建物被害検知AI	盛土検知AI etc...
<b>SateAIs 環</b> -Environment-	樹冠検知AI	土地被覆判定AI	街路樹 健全度評価AI etc...
<b>SateAIs 農</b> -Agriculture-	遊休農地判定AI	農作物育成段階 判定AI	土壌状態判定AI etc...
<b>SateAIs 時</b> -Time-	時系列変化 検知AI		

### ニーズに合わせた“柔軟な提供形態”

通常の解析コンサルサービスに加え、API/生成AI接続/ダッシュボードなど業務活用しやすい形で柔軟にご提供

<p><b>解析パッケージ</b> 必要な時に、必要な範囲だけ</p>	<p>初期投資不要でPoCに最適。</p> <p>対象 スポット利用・PoCを行いたい企業</p> <p>提供 解析レポート、GISデータ、技術サポート</p>
<p><b>業務システム連携</b> 既存システムと連携し、自動で解析</p>	<p>API・生成AI連携でシステムに組み込み。定期更新・自動実行で運用負担を最小限に。業務フローに沿った柔軟な対応が可能。</p> <p>対象 継続利用・システム統合を目指す企業</p> <p>提供 REST API、SDK、技術ドキュメント、生成AI接続</p>
<p><b>ダッシュボード</b> Web画面で、すぐに確認・共有</p>	<p>専用Web UIで解析結果を即時確認・可視化。社内共有をスムーズにし、すぐに業務に組み込むことが可能。</p> <p>対象 手軽に導入・社内共有したい企業</p> <p>提供 Webダッシュボード、可視化ツール</p>

※企画検討中のサービスを含む。変更になる可能性有。

# 衛星 × 生成AI で実現する 自動での情報収集・状況把握

衛星の数が急速に増えていく中で、すべてのデータを適切に取得・分析・判断することは困難に

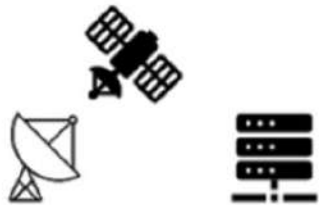
>>> 生成 AI を活用して、それらの作業や判断を支援

## 自動タスキング

必要なデータ取得を自動で行うシステム  
 気象情報などのトリガー情報をもとに  
 生成 AI で自動的に対象地域を観測

### ④タスキング依頼・実行

災害予報日時 および 過去データ  
 と同一の撮像条件を基に、タスキ  
 ングを依頼、実行



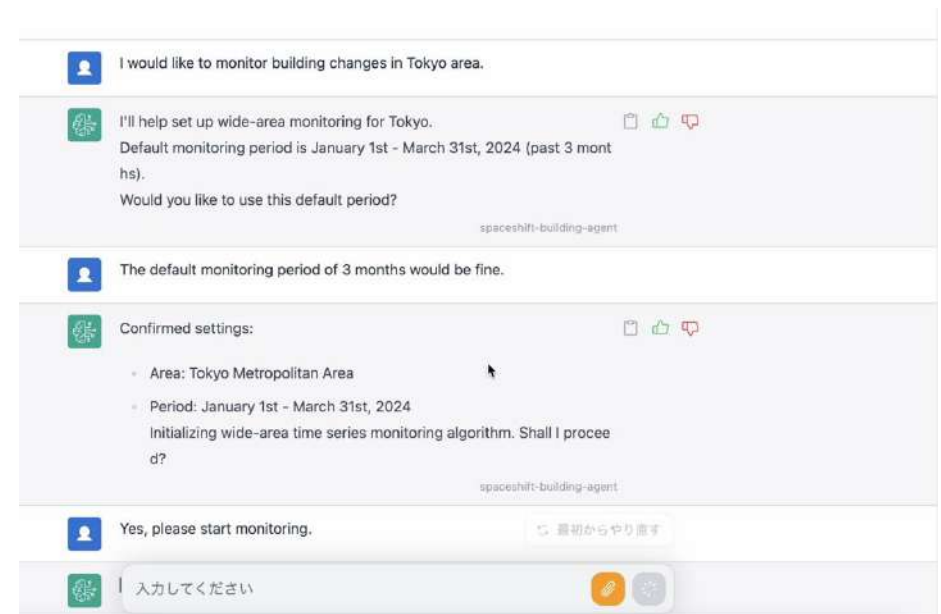
撮像へダウンリンク

データ生産

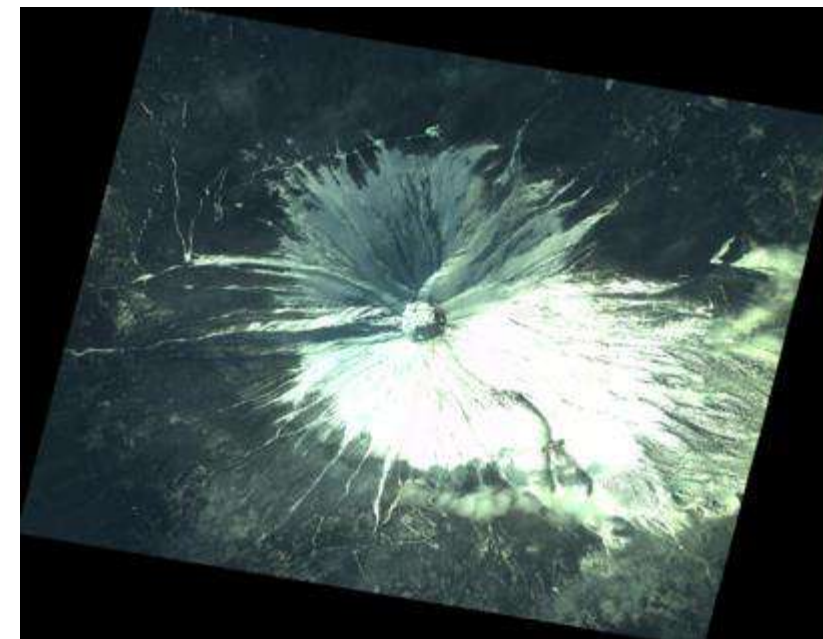


## プロンプトでの自動解析

対話型の生成 AI を用いて関心のあるエリアの  
 データ取得・解析・判断を可能に



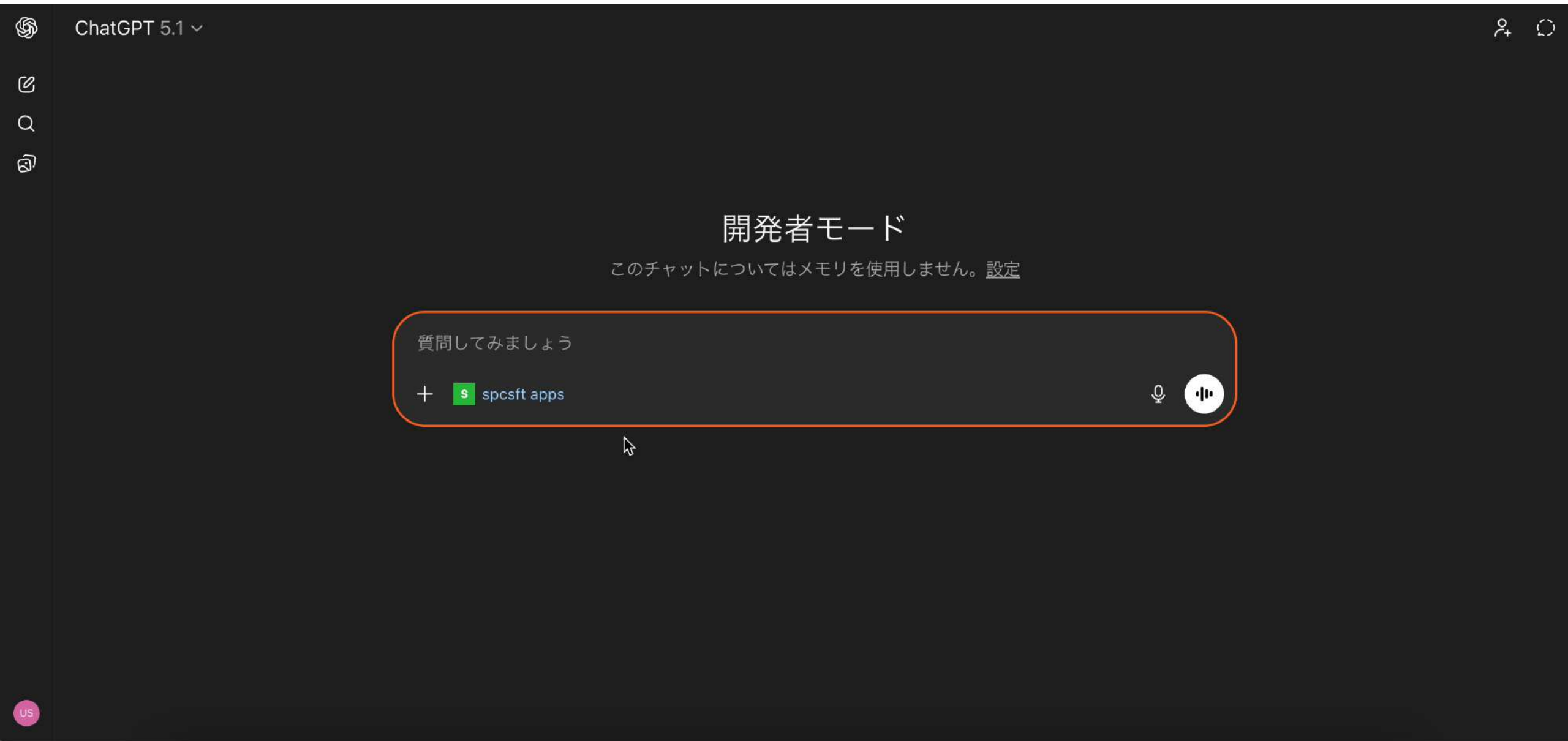
- スペースシフト、ハレックス、Tellusが実証
- 気象情報をトリガーとして光学衛星（ASNAROおよびGRUS）にタスキング
- 気象情報の内容から生成AIが自動的にAOI（Area Of Interest：関心領域）を指定して、観測を効率化



本実証にて ASNARO-1 により撮像された富士山の画像

各社の役割	各社の役割
Tellus	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ オンデマンドタスキングシステムの提供</li> <li>・ システム連携に関する技術支援</li> </ul>
ハレックス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 気象情報の提供</li> <li>・ 気象に関する専門的知見の提供</li> </ul>
スペースシフト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生成AIタスキングシステムの開発・実証</li> </ul>

The screenshot shows a chat window with a dark background. At the top left, there is a title bar with a square icon and the text "無題" (Untitled) with a dropdown arrow. On the left side, there is a vertical sidebar with several icons: a plus sign, a magnifying glass, a folder, and a gear. The main chat area contains a message from the user (SU) with a blue circular icon. The message text is: "latitude: 31.512722165941522, longitude: 34.44585775465542" followed by two lines of Japanese text: "上記の緯度経度はガザ地区の場所です。このガザ地区において2023年の変化を検知してください。さらにニュースを調査して変化の理由を、根拠をもって説明してください。" Below the message is a red starburst icon. At the bottom of the chat area, there is a text input field with the placeholder text "Claudeに返信..." (Reply to Claude...). To the right of the input field, there is a dropdown menu showing "Claude Sonnet 4" and a circular icon. Below the input field, there are several icons: a plus sign, a gear, and a magnifying glass with the text "リサーチ" (Research).



US

## SPACE SHIFT - Satellite Data Analysis Assistant -

Enter WKT polygon (e.g., POLYGON((139.7 35.6, 139.8 35.6, 139.8 35.7, 139.7 35.7, 139.7 35.6)))

Leaflet | © OpenStreetMap contributors

### Agent Chat

Hello! I can analyze satellite data for you. Draw a shape on the map and click 'Add to Chat' to add the coordinate information to the input field.



Enter your message...



# アフリカにおける取り組み

## 01

Credit Data Augmentation

### 農家の与信データ補完

- マイクロファイナンスサービスにおける小規模農家の与信データ補完
- 農家の金融アクセス向上

## 02

Crop Monitoring for SAF

### 生産活動の効率化・最適化

- 持続可能な航空燃料(SAF)の原料となる作物モニタリング、安定供給
- 肥料投入タイミングの最適化等

## 03

Tractor Dispatch Optimization

### 農業トラクター配車最適化

- 農機シェアリングプラットフォームと連携した配車最適化

# アフリカ小規模農家向けマイクロファイナンスの実証

## 案件

- 令和5年度補正「グローバルサウス未来志向型共創等事業費補助金（我が国企業によるインフラ海外展開促進調査）」

## 期間

- 2024年9月～2025年2月

## 概要

- ナイジェリアにおいて、**農地衛星情報を活用した農家向けマイクロファイナンスサービスの開発**を実施した。
- 対象は**ナサラワ州のゴマ・コム農家**。ゴマは商品作物（最大輸出先は日本）、コムは食料自給の鍵となる作物。
- Phase 1では**実際の資金ではなく農機・農業資材・肥料等の実物を提供**、Phase 2で金融機関と連携した資金融資を想定。

01

衛星データ解析AI



農家の営農や作物の成長状況を  
衛星データで解析・データ化

▶ 解析データを提供

02

現地マイクロファイナンス

Zowasel

与信スコアの生成と農家への貸付の実施

▶ 農家の返済能力を客観評価

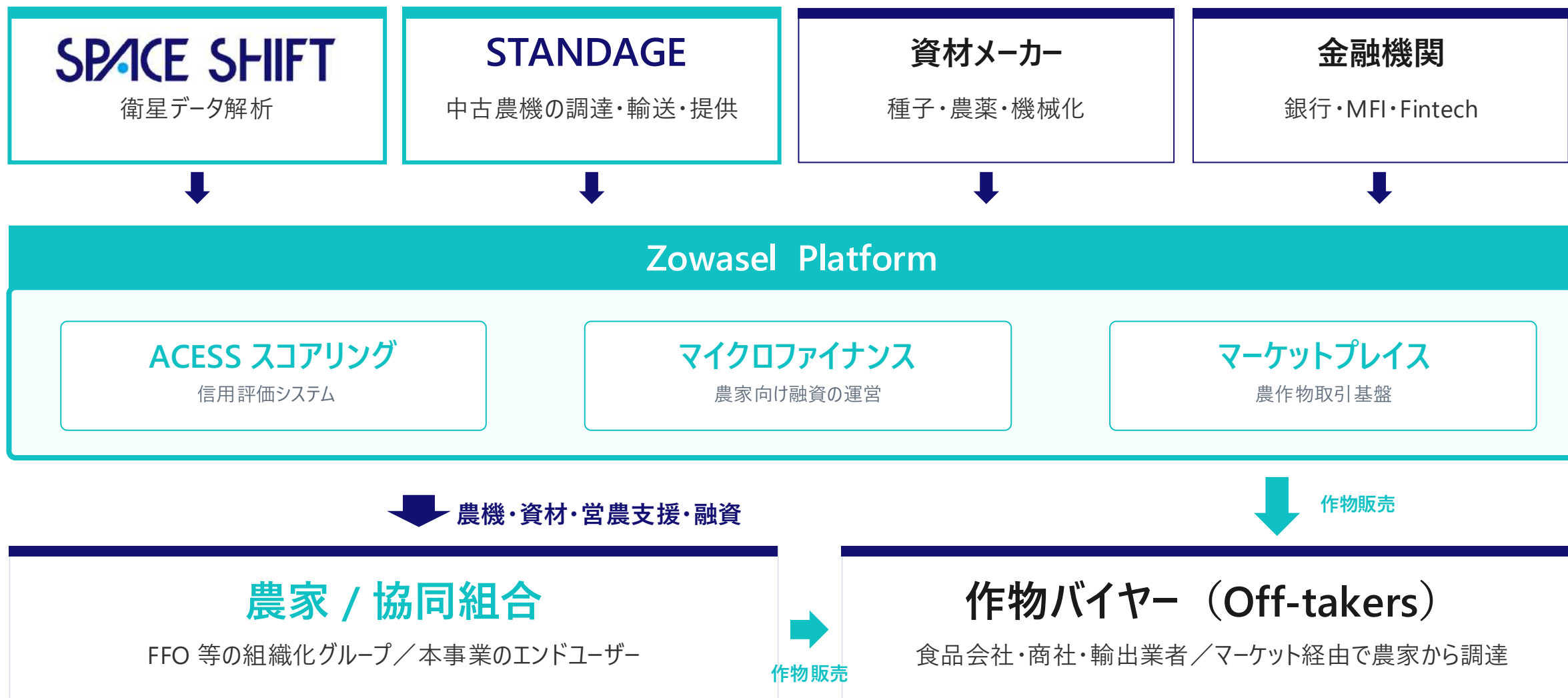
03

中古農機の調達・輸送

STANDAGE

農機・肥料等の現物を調達・提供

▶ 農家に実物を提供



## INPUTS — 入力データ

01

### 圃場プロフィール

位置・面積・作物・農家情報など、農地ごとの基礎データ

何をどこで作っているか

02

### 信用の5C

人物・返済能力・自己資本・担保・経済状況、伝統的な与信5項目

どんな借り手か

03

### 市場予測

対象作物の販売価格と需給動向の見通し

いくらで売れるか

04

### 収量予測

今年の収穫量と、そこから得られる販売収入の見込み

どれだけ穫れるか

05

### 農学データ

土壌・気候・営農技術・過去の作付と収穫の記録

ちゃんと作れる人か

06

### 取引履歴データ

過去の販売実績・借入と返済の履歴

ちゃんと返す人か

アルゴリズム  
AI予測 + 人的動的変数

## OUTPUT — 信用スコア

選定スコア (Selection Score)

**A** 最良  
融資可能

**B** 良好  
融資可能

**C** 条件付き  
融資可能

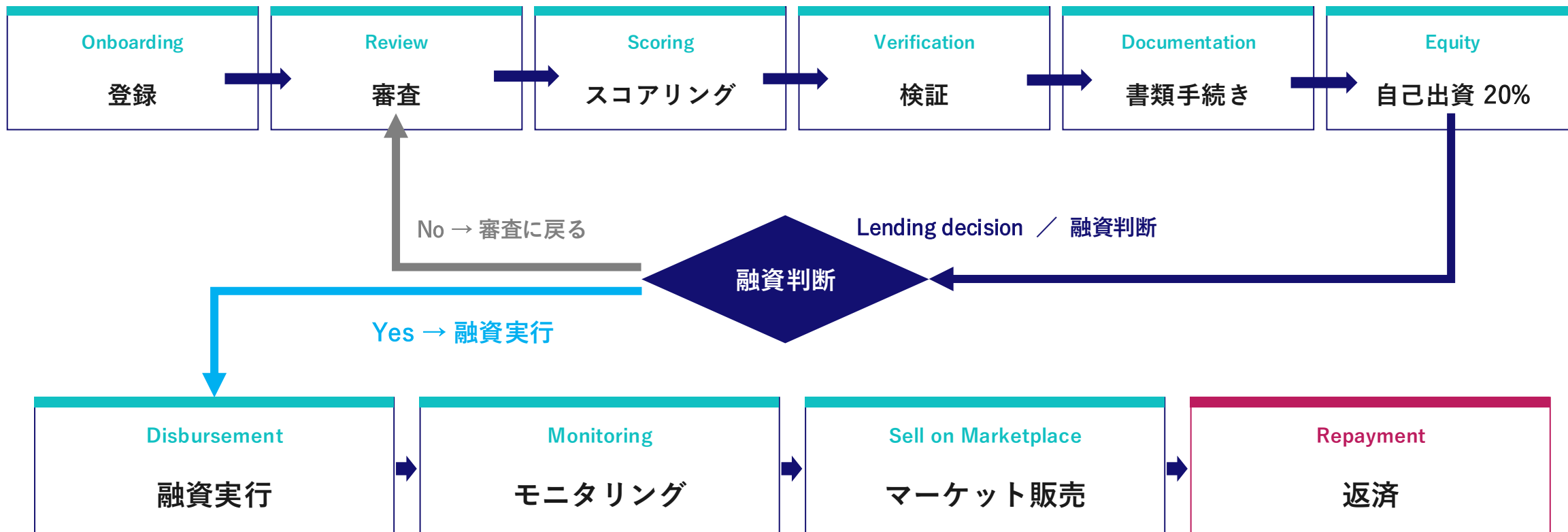
**D** 不適格  
融資対象外

A・B・Cの農家がローン利用可能

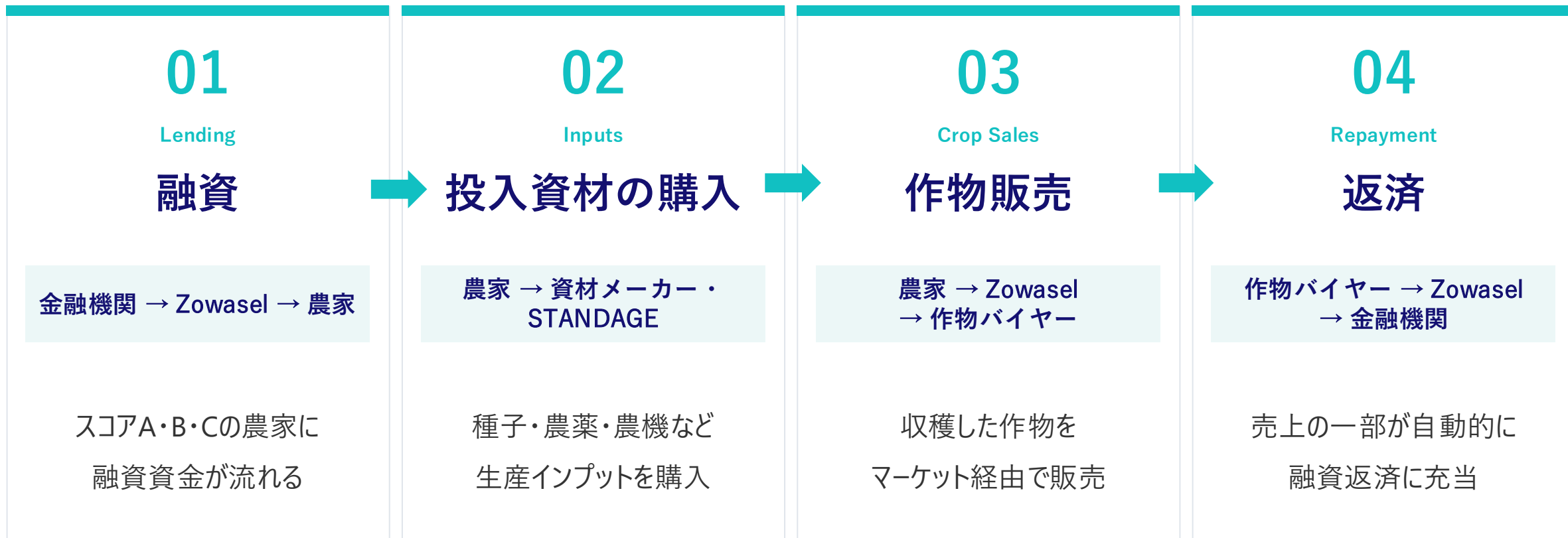
## スコアリングの仕組み

6種類のデータを加重統合し、機械学習で農家ごとの信用リスクを判定。返済能力に応じた融資上限と返済期間も推奨される。

A・B・Cの農家は融資可能、Dは対象外。スコアは継続的に再評価される。



! 重要：高スコア農家でも Equity Contribution (20%のコミットメント証拠) が必要



重要

マーケットプレイスが作物の確実な売り先を保証し、循環を回す仕組みをつくる。これにより返済率の高さを実現。

## 01 農家の事業性とリスク

- **組織化された農家**  
FFO（農家グループ）所属の農家は相互責任が働き、返済率が高い
- **未組織の農家**  
グループの支えがなく、リスクが高く返済率も低い

## 02 返済に影響する要因

- **地域差が大きい**  
ナサラワ州86%（10%リストラ、5%デフォルト） / Ondo・Oyo・Kwaraは100%
- **属性・所有形態**  
女性が独立して農地を所有しにくく、女性農家のデータ取得が困難
- **遅延の原因 ★**  
不作・降雨不足・営農経験の不足が返済遅延につながる

## 03 データ収集の課題

- **サーベイへの懐疑**  
農家が過去の融資情報の開示を渋り、正確なデータが取れない
- **データ不足 ★**  
多くの農家で追加データが必要、再評価が必要
- **継続検証が不可欠 ★**  
栽培・収穫期を通じた現場データ検証が精度と信頼性の鍵

## 04 金融包摂の障壁

- **BVNアクセス**  
銀行検証番号を提示できない / したらない農家が多い
- **保証人探しの困難**  
協同組合リーダーが過去のトラブルから保証を躊躇
- **農地マッピングへの抵抗 ★**  
距離やデータ共有への懸念から拒否され、スコア精度に直接影響
- **法的懸念**  
身元・返済能力が不明確な農家を保証することへの法的不安

★：衛星データ解析で課題解決することが期待される

## 3 OUTPUTS

### 解析結果として何を返すか

01

Planting & Harvest Timing

#### 定植／収穫時期の判定

時系列データから、いつ作付し・いつ収穫したかを判定

▶ 営農サイクルの可視化

02

Historical Yield Estimation

#### 過去の収穫量の推定

過去数年の収穫量を解析で推定

▶ 農家としての実績・能力の客観評価

03

Current-Year Yield Prediction

#### 今年の収穫量の予測

成長中の作物データから、今年の収量を予測

▶ 返済能力の予測

## OUTPUT IMAGE

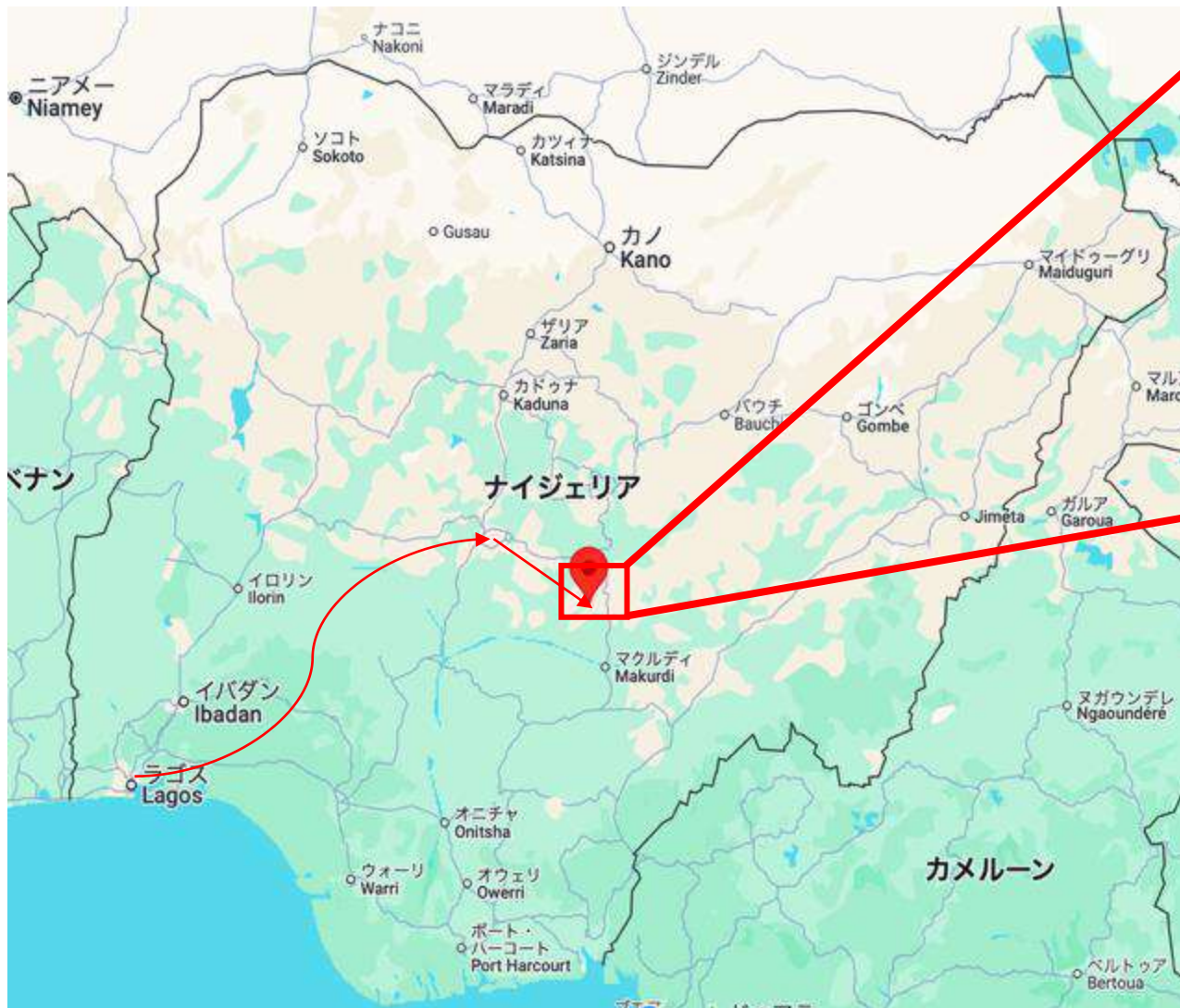
### アウトプットのイメージ

農家・農地ごとに、年・作物・収量を構造化して出力する。

年	コミュニティ	農家ID	農地ID	作物	収量 [kg/ha]
2022年	Comm1	A	1	コメ	2
2022年	Comm1	A	2	コメ	1
2022年	Comm1	A	3	コメ	7
2022年	Comm2	B	1	ごま	2
2023年	Comm2	B	2	ごま	3
2024年	Comm2	B	3	キャッサバ	10

※ 上表はイメージ。実際は数百圃場分の出力が並ぶ。

この構造化データが、信用スコアリングや与信判断の補完入力となる



## 選定された実証地

- 01 **Kawo Crop Center**  
コメ・ゴマが盛んな中心地
- 02 **Iwashi**  
コメ100% / ゴマ90%の作付
- 03 **Sabon-Gida Bakin Kogi**  
洪水・干ばつの影響あり
- 04 **Assakio**  
コメ・ヤム・トウモロコシ



農地の視察

農家・コミュニティへのヒアリング



病害・雑草等の確認



コメ圃場の確認

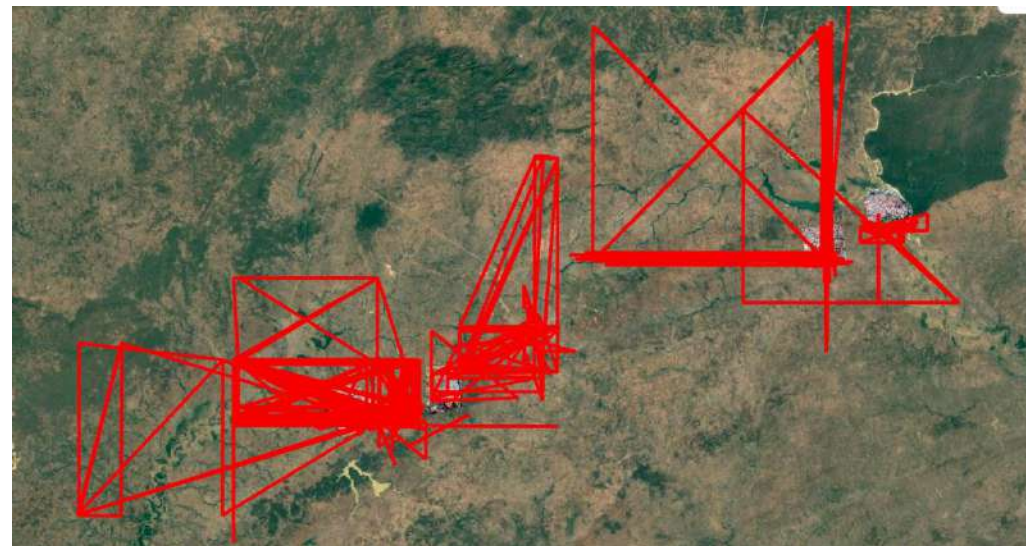
## KEY OBSERVATIONS

- 農家の圃場面積は2-250haと大きくばらつく（小規模が圧倒的多数）
- 病害（Ebola weed等）・洪水・干ばつ被害が報告された
- コメは年2回、ゴマは年1回の作付サイクル

## 理想



## 取得した現地データ



### INSIGHT

#### 前提の崩壊と対処

#### ■ 課題：圃場ポリゴンが引けない

- 農家から取得している情報が未入力・誤記、GPSを使った情報も不正確
- 木で境界を識別する等のローカルルールがあり/ 日本のように畦のような境界が存在しない

#### ■ 対処：高分解能画像(Planet)を取得し、ポリゴン生成モデルを用いて自前で約300圃場のポリゴンを構築

1筆内多作物・作付の不安定さ — 単純な時系列クラスタリングでは扱えない

01

## 同じ圃場に複数の作物が植えられている

1筆の中をブロック分けして、コメ・キャッサバ・ゴマ等を同時栽培するケースが多い。  
ピクセル単位の解析が変動要因に振り回される。

02

## 毎年生産している作物が安定しない

農家が年により作物を切り替える、または天候・市場に応じて変える。  
同一圃場の経年変化を「同一作物の品質変化」と読み違える恐れ。

### 対応

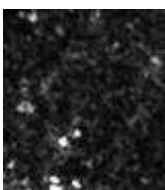
- 1圃場を何かしらの教師なしクラスタリングアルゴリズムで分割（別案件でもこの手法を一部採用。植生の強さの違いで1圃場を2分割にするなどで対応。）
- データが豊富にあるのであれば、1圃場を1ラベルとするのではなく、マルチラベルで学習
- ピクセル単位、または意味のある単位（NDVIの強さ別など）で学習や解析
- 高解像度衛星画像データで境界線を引いて分割（作物間の境界が明瞭な場合に限る）

## インプット

光学衛星データ



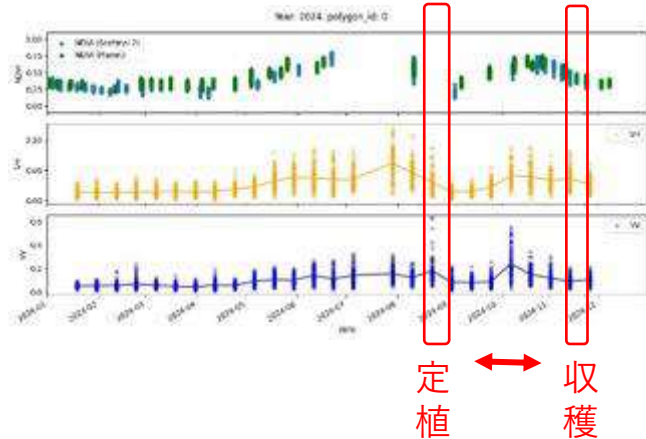
SAR衛星データ



対象の圃場ポリゴン



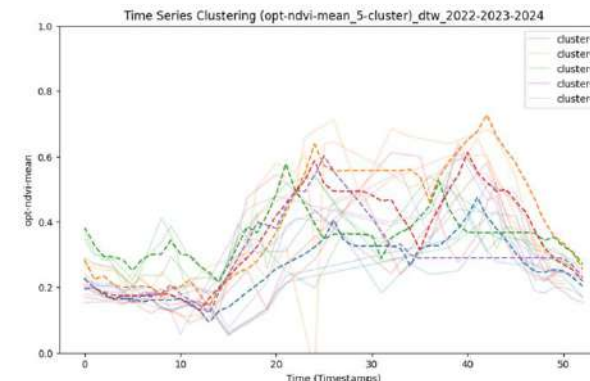
## 定植/収穫時期の推定



## 作物の種類/雑草の分類推定

栽培時期や時系列的特徴から推定

コメ  
ゴマ  
雑草  
その他



## 収量予測

2022年: A[kg/ha]  
2023年: B[kg/ha]  
2024年: C[kg/ha]

2022年: X[kg/ha]  
2023年: Y[kg/ha]  
2024年: Z[kg/ha]



現地データ (正解データ) と突合して精度評価

## KEY TAKEAWAY

衛星データによる小規模農家の信用評価補完は技術的に成立。

事業化の鍵は ① 現地パートナーのデータ品質 ② 運用サイクルの設計 ③ 段階的なファイナンス商品化。

## ✓ 技術的成果

- ナサワ州4コミュニティで約300圃場の自前ポリゴンDBを構築
- 光学 (Sentinel-2 / Planet) + SAR (Sentinel-1) の組合せで雨季も時系列観測が可能に
- 圃場の9割で定植・収穫時期を判定 / 判定見込みを確認
- 教師なしクラスタリングで時系列から5パターンの作物特徴量を抽出
- 現地調査→データ授受→解析→突合の運用サイクルを実証

## △ 直面した壁

- 現地パートナーが収集したGPSデータが不正確で、圃場ポリゴンが不成立
- 1筆の中で複数作物を混作するケースが多く、ピクセル単位の解析が不安定に
- 正解データ（収量）が現地で取得されておらず、推定の精度評価が困難
- 残り1割の圃場：雲・特殊作型・極小区画など、衛星データだけでは判定困難
- クラスタ⇔作物種の対応付けは、現地データ追加が必要で継続調査に

## 示唆

- 衛星データは「与信評価の補完」として有効。単独で代替するのではなく現地データと統合する設計。
- 現地パートナーのデータ品質は事業成否を左右する。早い段階でデータ監査（取得方法・粒度・正解データの有無）を行うことが重要
- 小規模農家の混作・不規則性は前提として扱う。ピクセル解析だけでなく圃場・コミュニティ単位の指標を組み込む
- オペレーション設計（現地調査→授受→突合のサイクル）こそが模倣困難な競争優位
- 実物給付（Phase 1）→資金融資（Phase 2）の段階設計は現地リスクへの有効な打ち手

## NEXT

残り1割の要因究明・収量予測モデル構築・パートナー多角化を進め、Phase 2（現地金融機関連携の資金融資）へ。ターゲットの農家を小規模農家からシフトする方が、直近で迅速に事業化するためには好ましい

# その他アフリカ関連の取り組み

MoU PARTNER

## Satarem America Inc.

Satellite-Based Crop Monitoring

Bioethanol & SAF Feedstock の生産モニタリング

持続可能な航空燃料用作物のモニタリング

MoU PARTNER

## Hello Tractor

Tractor-Sharing & Mechanization

農機シェアプラットフォーム

農機配車最適化と収穫生産性の向上



PANEL DISCUSSION AT TICAD9

## TICAD9でのパネル登壇

各社のアフリカでの取り組み紹介と、衛星データがアフリカのDXや持続可能な農業にどう貢献できるかを議論

登壇者：

- The African Development Bank (AfDB)
- Middle East and Africa, Mizuho EMEA
- Satarem America Inc.



AIF 2025 — RABAT, MOROCCO

## AIF2025でのパネル登壇

2025年11月26～28日 / モロッコ・ラバト

民間資金とPPPによる持続可能なインパクト創出をテーマにパネルディスカッション

アフリカでの事業実装に向け、政府機関と商業パートナーの双方とネットワークを構築中。

AIF2024/2025参加を機に、現地企業との実証可能な資金スキームの探索を加速。



NETWORK OF RELATED ORGS

## 関係機関とのネットワーク

政府系・商業系の両軸で展開

既存リレーション

AfDB / JICA / JETRO / IOM / UN-Habitat

今後のターゲット

World Bank / FAO / IFC / IFAD / UNIDO

現地PoC実装のための補助金・ファンドも探索中



## ITUジャーナル 5月号「アフリカの開発に向けた官民連携」

## SpaceStep 「最後のフロンティア・アフリカ宇宙産業の現在地」

### 【連載】世界基準で読む宇宙ビジネス (5/14公開)



[https://ituaj.jp/?itujournal=2026\\_05](https://ituaj.jp/?itujournal=2026_05)

<https://space.japanstep.jp/learn/2026/05/1969/>

# 開発コンサルタントとの協働可能性

## スペースシフトが提供できること

- 衛星データ解析AI（収量予測・営農モニタリング・土地利用変化）
- 現地パートナー・農家データとの突合・検証
- 技術要件の定義と精度の継続改善
- ダッシュボード等の開発（要相談）

## 開発コンサルタントが提供できること

- 現地セクター知見・制度設計・ステークホルダー調整
- JICA・AfDB・FAO等の案件形成・組成のノウハウ
- 現地政府・公的機関との対話チャンネル
- 現地データ・情報収集

## 想定される3つの協働領域

01

Master Plan Design  
農業マスタープラン

- 衛星：土地利用変化、収量変化、災害リスク等
- コンサル：ステークホルダー調整、必要インフラ開発等
- ターゲット：現地政府・JICA・AfDB 案件形成

02

Project Formation / PoC  
農業ビジネス

- 衛星：収量推定・生育モニタリング等
- コンサル：制度・ビジネスプラン設計、専門指導等
- ターゲット：商社・農業法人・現地政府

03

Policy Dialogue  
現地政府との対話・政策提言

- 衛星：過去～現状把握（作付・農地面積調査等）
- コンサル：政策パッケージ化
- ターゲット：農業省・統計局



# SPACE SHIFT

Sense the Unseen from Orbit

---

ご清聴ありがとうございました

